



## とり 鳥は、どうして片足で立つの

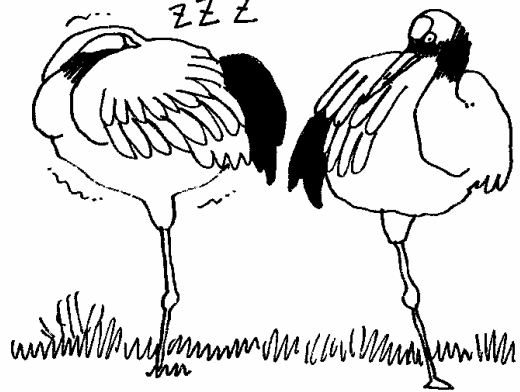
### とり 鳥は、足を毛の中に入れてほうが暖かいから

かたあし た  
片足で立っているのが目立つのは、ツルやフラミンゴなど、あしなが とり  
足が長い鳥です。これらの鳥  
は、ねむるときも、たいてい、かたあし た  
片足で立ってねています。つかれないように、さゆう あし  
左右の足をか  
わるがわる変えながら、かたあし た  
片足で立っているのです。

これらの鳥の長い足には、毛や羽が生えていません。また、ねる場所は、ばしょ みずべ  
水辺や、どろぬ  
ます。ですから、かたあし ちぢ  
片足を縮めて羽毛の中に入れては、たいおん だ  
体温がにげ出すのを少し防げます。  
また、すいちゆう た  
水中に立っている片方の足のつけ根の所、あし さき  
足先からもどってきた冷たい血液が、あたた  
められて体内（心臓）にもどり、かわりに、あたた  
ここで温かい血液が冷やされて、あし さき  
足先に送ら  
れます。これで、とり  
鳥の体内は冷やされずすみす、あし さき  
足先にはいつも冷えた血液がなが  
れて  
いて、あし  
足にしもやけができたりしないといえます。

### とり 鳥は、ねるときは、たいてい、足を腹の羽毛の下に入れる

カモやアヒルなどは、かたあし た  
片足で立つことはありませんし、ねるときも、ぺたん と地面にうず  
くまって、はら け  
腹の毛の下に、りょうあし  
両足をうずめて  
います。木の上やとまり木でねる鳥も、たい  
てい、あし ま  
足を曲げて縮め、はら  
腹にくっつけ、くび  
首を  
せなか  
背中にうめてねます。こうすれば、さむ よる  
寒い夜も、あたた  
暖かくねられるからです。あし ま  
足を曲げると、  
あし ゆび すじ ひ ば  
足の指の筋が引っ張られ、とまり木をかたく  
にぎるようになるので、お  
落ちる心配はありません。（監修・今泉 忠明）



一本足でねむるツル

